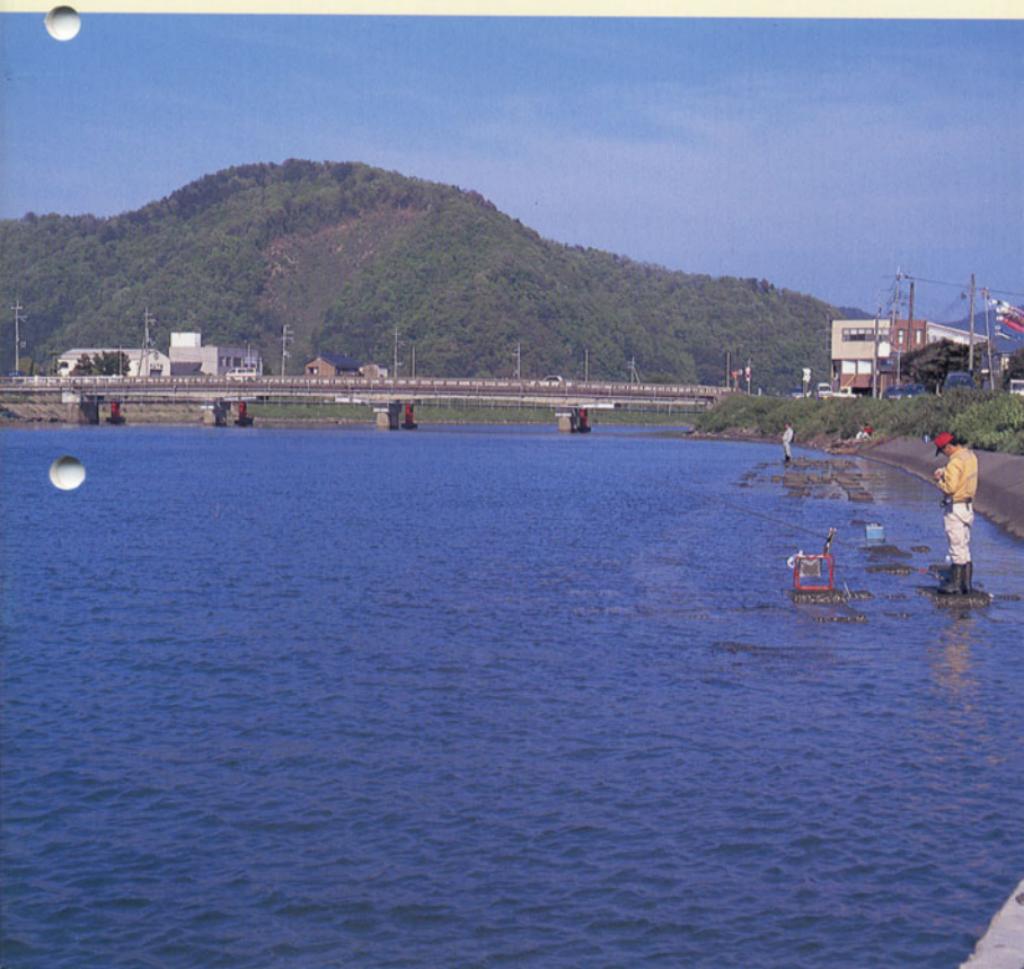


南川

自然観察の手びき



## はじめに

私たちの郷土・福井県は、本州のほぼ中央にあり、様々な自然環境に恵まれています。

自然は、私たちの生活と深いかかわりがあり、健康で文化的な生活を確保するためには、これを適正に保護し、後世に残していかねばなりません。このため、県民ひとりひとりが自然に対する正しい知識を深め、自然保護の精神を身につけることが大切です。

本小冊子は、この目的のため自然に接して、そのしくみや人間との関係について理解を深め、自然に対する愛情やモラルを育てるために作成しました。

この小冊子を野外教育や自然観察などのガイドブックとして、活用していくだければ幸いだと思います。

平成9年3月

福井県知事 栗田幸雄

## 目 次

南川の概要	3	2種類のカラスの見分け方	19
源流域	4	中流域の草原に多く見られる鳥	20
上流域	5	ツバメの見分け方	21
森の中の昆虫	6	春に堤防などで多く見られる草花	22
森の中の昆虫	7	南川の「春の風物詩—ミイザザギ」	23
南川の周辺で見られるトンボの仲間	8	河口で多く見られる鳥	24
中流域で見られるオオカナダモの群生	9	河口付近で多く見られるシギ・チドリの仲間	25
上流域で見られる魚	10	冬の南川下流で多く見られるカモの仲間	26
中流域の水底に棲んでいる魚	11	下流域で多く見られるカモメの仲間の見分け方	27
南川に多いアユ	12	南川の河口で多くみられるカモメの仲間の見分け方	28
中流域で見られる魚	13	南川で多く見られるカツブリの仲間	29
カニや貝の仲間	14	サギの仲間	30
中流域から下流域のよどみに見られる水生昆虫	15	真っ白な鳥を見かけたら	31
河原の草原に多く見られる虫	16	南川の秋の景色	32
川に棲む代表的な鳥たち	17	秋の紅葉	33
セキレイの仲間	18	南川の冬景色	34

## 南川の概要

延長 39km

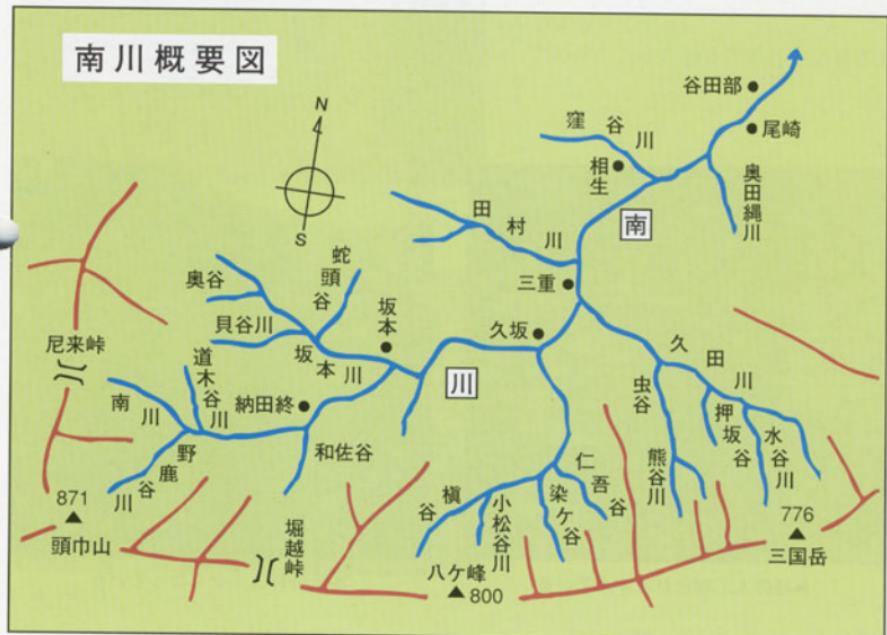
源流 頭巾山北斜面



南川は頭巾山(871m)を源流とし、坂本地係で坂本川と、久坂地係で染ヶ谷川と、三重地係の近くで久田川と、次いで田村川と合流して若狭湾に注ぐ水量豊かな川です。

流域の四季には豊富な動植物を数多く見つけることができるでしょう。

南川概要図



## 源流域



▲堀越峠より山林を望む



▲峠付近の案内板



▲杉の人工林化がすすんでいる



▲天然林は少なくなっている

# 上流域

## カエルやイモリ



▲上流域

谷が深いため水量も豊富です。



▲カジカガエル

手の大きさと比べてみましょう。



▲イモリ

イモリは冷たい川にも棲みます。



▲カジカガエル

上流域の冷たい水の中にはカジカガエルが見られます。

虫の声のような鳴き声が谷川に響きます。



▲カジカガエルのオタマジャクシ

清流の中のカジカガエルのオタマジャクシは泳ぎがすばやいです。

## 森の中の昆虫



▲カブトムシ♂

子供達に人気がある昆虫です。



▲カブトムシの羽化



▲ミヤマクワガタ♂

りっぱなアゴが特徴です。

カブトムシやクワガタムシには、ナラ類やクヌギなどの木がたくさん生えているところが必要です。

しかし、広葉樹林は少なくなっています。



▲ノコギリクワガタ♂

ミヤマクワガタとはアゴの形がちがいます。



▲トゲナナフシ

木の枝にそっくり！



◀ミヤマクワガタ♀

クワガタの仲間の雌は雄に比べてアゴが小さい。これは木に穴をあけるのに適しています。



▲アブラゼミ

「ジーー」という声がにぎやかです。



▲ミンミンゼミ

8月頃から「ミーンミーン」という声がよく聞かれます。



▲ヒョウモンチョウの仲間

けもののヒョウのような模様が特徴です。

## 南川の周辺で見られるトンボの仲間



▲ハグロトンボ

真夏によく見られます。



▲オニヤンマ

日本で見られるトンボの中では一番大きなトンボです。



▲ノシメトンボ

ノシメトンボは成熟しても赤くなりません。



▲ナツアカネ

ナツアカネは卵を空中でまくようにして産卵します。

### イトトンボの仲間



## 中流域でみられるオオカナダモの群生

南川中流域の野代のあたりではオオカナダモ、コカナダモが群生しています。



▲オオカナダモ・コカナダモの群生地



▲オオカナダモ・コカナダモの群生地



▲オオカナダモ



▲オオカナダモの花

これらの水草は魚などを飼育するときにいっしょに入れるのに適しています。

## 上流域で見られる魚



▲上流域のよどみ

水のきれいな渓流にはヤマメやアマゴが棲んでいます。

これらの魚は釣り魚として放流もされており、多く見られます。

### ヤマメ ▶

ヤマメは川から海にくだるものと川に残るものがあります。

海で成長したものはサクラマスとして知られています。

よく似たアマゴは体に赤い点々があることで区別できます。



### ◀ タカハヤ

上流域に多く見られます。よく似たアブラハヤもいます。

## 中流域の水底に棲んでいる魚



中流域の底の方に棲んでいる魚がいます。

### ▲ゆるやかな中流域

群生している植物はツルヨシです。

#### ヨシノボリ ▶

中流から下流まで棲んでいます。

南川には多く見られます。



#### ◀ カマツカ

下流域に多く棲んでいます。

#### カジカ ▶

石の下でときどき見られます。

数は多くありません。



## 南川に多いアユ

南川の中流域は、初夏からアユのつり人でにぎわいます。

アユのなわばり争いの習性をたくみに利用した友釣りが主流になっています。



▲アユ



▲せき

上流へのぼろうとするアユの前に立ちはだかります。



▲魚道



▲魚道

堰の傍らには魚道がつくれられ、魚が上流へのぼれるように工夫されています。



▲友釣り



▲とあみ

## 中流域で見られる魚



▲中流域

水量が豊かな南川の中流域にはいろいろな魚が棲んでいます。



◀ こんいんしょく  
◆ 婚姻色が見られるウゲイ

中流域から河口まで生息しています。  
河口に大群が集まることがあります。



▲オイカワ（生殖期 ♂）



▲カワムツ（生殖期 ♂）

カワムツやオイカワは、生殖期になると  
体の色があざやかになります。

## カニや貝の仲間



▲サワガニ

上流から下流まで広く棲んでいます。



▲モクズガニ

中流域の流れのゆるやかな場所に棲んでいます。



▲アメリカザリガニ

中流から下流にかけてよく見られます。



▲モノアラガイ

生活排水の流れ込むような所に多く見られます。



◀ タニシ

昔は水田で多く見られたタニシも、農薬が使われるようになってから少なくなりました。

## 中流域から下流域のよどみに見られる水生昆虫



▲中流域

中流域のよどみにも、いろいろな生き物が見られます。



▲タイコウチ

手の動きが、太鼓をたたいているようなことからこの名がついています。



▲ミズカマキリ

タイコウチとよく似ていますが細いので区別ができます。



▲ヘビトンボの幼虫

石の下などでよく見られます。



▲ヒラタドロムシの幼虫

成虫は5~9mmくらいのコガネムシのような形をしています。



▲ヒラタドロムシの幼虫（裏面）

## 河原の草原に多く見られる虫



▲ショウリヨウバッタ

オスはキチキチと音をたてて飛びます。



▲オオカマキリ

草むらでよく見られる大型のカマキリです。



▲キアゲハ



▲キアゲハの幼虫



▲ハンミョウ

人が歩くと前に飛んで、まるで道案内をするようなところから「ミチオシエ」とも呼ばれています。



▲ヒメジャノメ

草原のチョウでよく見られます。

## す 川に棲む代表的な鳥



◀ 鳥が多く集まるところ



◀ ヤマセミ  
溪流の鳥の代表です。  
白黒模様のあるハトくらいの鳥です。



▲カワセミ  
川の鳥の代表です。近年はあまり見られなくなりました。



◀ オシドリ（♂）  
おしどり夫婦という言葉で有名な鳥です。  
繁殖期以外は中流域で多く見られます。

## セキレイの仲間

セキレイの仲間はスズメ大の鳥で、尾を上下に振りながら歩きます。セグロセキレイは上流域から河口付近にまで、広く棲んでいます。また、一年を通じて見られます。



◀セグロセキレイ

水辺で多く見られる鳥です。

### キセキレイ▶

セキレイの仲間ですが、黄色い部分が目立ちます。上流域で多く見られます。



◀ハクセキレイ

主に冬鳥ですが県内的一部の地域で繁殖が確認されています。

顔に白い部分の多いのが特徴です。

## 2種類のカラスの見分け方

よく見られるカラスに、2種類あることは意外に知られていません。



### ◀ハシブトガラス

ハシボソガラスとくらべ、おでこがより大きくでっぱって見えます。

また、声もカーカーとかアーアーとか比較的澄んだ声に聞こえます。

ハシブト、ハシボソのハシとは、くちばしを示し、ハシブトガラスのくちばしはハシボソガラスのものよりも太いです。

### ハシボソガラス▶

ハシブトガラスより少し小さく、おでこが出っぱっていません。鳴き声はガーガーとにごった声に聞こえます。



## 中流域の草原に多く見られる鳥



▲中流域に見られる草原

豊かな自然環境が少なくなっている中で、河川の中の草原はいろいろな生き物の棲み場となっています。



◀ ホオジロ

大きさも色もスズメによく似た鳥です。草原で多く見られます。



▲カワラヒワ

飛ぶと羽の黄色が目立ちます。河原で多く見られる鳥です。



◀ モズ

カエルなどを枯れ枝に刺す有名な「はやにえ」をつくる鳥です。漢字で百舌（モズ）と書くようにいろいろな鳥のなきまねが上手です。

## ツバメの見分け方

南川では3種類のツバメが見られます。

飛んでいるとき、腹面以外の全体が黒っぽい普通のツバメの他に、腰の部分が白いイワツバメ、また、腰の部分がオレンジ色のコシアカツバメがいます。



▲ツバメ



▲ツバメの巣

ツバメ



イワツバメ



コシアカツバメ



ツバメ



イワツバメ



コシアカツバメ

「日本野鳥の会 野鳥識別ハンドブックより」

## 春に堤防などで多く見られる草花



春になると南川下流ではアブラナの仲間（カラシナなど）が満開となります。

▲色鮮やかなアブラナの仲間



▲オオイヌノフグリ

小さなかわいい花です。



▲セイヨウタンポポ

総苞の外側のものがめくれているのが特徴です。



▲カキドオシ

垣根を越して隣の家まで侵入するところからこの名がついています。



▲カラスノエンドウ

実が黒く色付くことからこの名がついています。

## 南川の「春の風物詩—イサザ漁、」

南川では3月中旬から4月上旬にかけてシロウオ漁が行われます。シロウオはハゼ科の魚で、この地方ではイサザと呼んでいます。

春になると産卵のために溯上してきます。



▲シロウオ



▲シロウオ



▲イサザ漁のやぐら

シーズンになると所狭しと立ち並びます。



▲オーダーメイドの捕獲用の網



▲水中に網を沈めて待つ。



▲イサザ

とれたイサザを生きたままワサビ醤油しょうゆにつけて食べる「踊り食い」は有名です。

## 河口で多く見られる鳥



▲小浜湾に注ぐ南川

### トビ ▶

トンビの名で親しまれていますが、  
正しい名はトビです。



▲ウミウ

河口付近で多くみかける黒い鳥です。  
羽を広げて乾かしています。

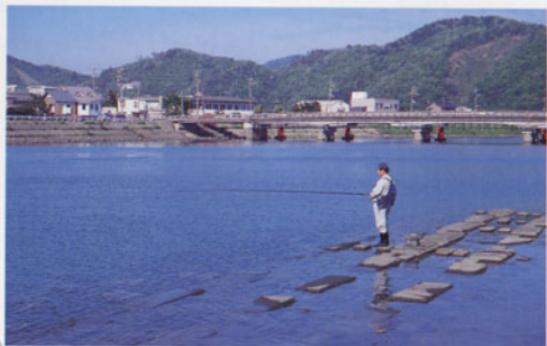


### イソヒヨドリ ▶

ハトよりもわずかに小さく、紫色が  
目立つ鳥です。きれいな声のさえずり  
が聞かれます。



## 河口付近で多く見られるシギ・チドリの仲間



▲河口付近

南川の河口付近では、シギやチドリの仲間が見られます。

### イソシギ▶

多くみられるシギです。尾を上下にふりながら歩いています。



◀コチドリ

地面を足早に歩き回ります。  
目のまわりの黄色が目印です。

### キアシシギ▶

春と秋の渡りの季節に  
見られます。



## 冬の南川下流域で多く見られるカモの仲間

冬の南川下流域にはいろいろなカモの仲間が見られます。



▲冬の下流域



▲ヒドリガモ（前♂ 後♀）

南川河口で冬になるといつも見られます。



▲ホシハジロ♂

茶色の頭が特徴です。



▲オカヨシガモ

河口でときどき見られます。



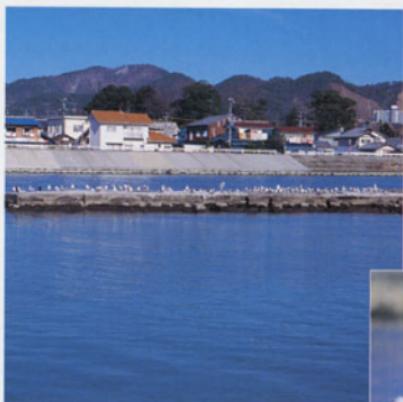
▲オカヨシガモ

オカヨシガモやヒドリガモは体の半分だけを水中に入れて餌を探ります。

## 下流域で多く見られるカモメの仲間の見分け方

一般にカモメと呼んでいる鳥のほとんどはウミネコです。ウミネコは南川下流域で一年を通じて見ることができます。

カモメの仲間のほとんどは冬鳥です。夏場に河口で見られるのはたいていウミネコです。



◀ 河口

河口の水面に群がるカモメ類です。



▲ウミネコ

黄色い足が特徴です。



▲ウミネコ

尾の先が黒いことでも他のカモメ類との区別がつきます。



◀ カモメ類の幼鳥

カモメ類の幼鳥は黒っぽい色をしています。

## 南川の河口で多くみられるカモメの仲間の見分け方



### ◀セグロカモメ

ウミネコより一回り大きなカモメです。足がピンク色で背中はウミネコよりやや白っぽく見えます。(写真中央)  
冬になると多く見られます。

### ユリカモメ▶

ウミネコより小さなカモメです。冬は頭まで白くなりますが、夏になると頭の部分が黒くなります。



▲ユリカモメの夏羽



### シロカモメ▶

とても大きなカモメです。冬のカモメの群れの中にときどき見ることができますが、珍しいことです。

あなたも見つけてみませんか。



## 南川で多く見られるカイツブリの仲間

南川には2～3種類のカイツブリが見られます。カイツブリの仲間はカモの仲間のように水面に浮んで泳ぎますが、もぐるのが得意で一度もぐるとなかなか水面にあがって来ず、もぐったところより、ずっとはなれたところからあがって来ます。



◀カイツブリ

ハトくらいの大きさの鳥で、河口から、中流域までの深くよどんだところでよく見られます。水の中に浮かぶ巣を作ることで有名です。



◀巣



▲カンムリカイツブリ（冬羽）



▲カンムリカイツブリ（夏羽）

南川では冬に多く見られます。



◀ハジロカイツブリ

南川でもこのような大群が現われることがあります。

## サギの仲間

南川には、魚を好んで食べるサギの仲間がたくさん棲んでいます。



▲アオサギ（中央）

南川で見られる最大級の鳥です。  
一年を通じて多く見られます。



▲ゴイサギ

背中の緑色が特徴ですが、この色になるまでに約5年を要します。  
(幼鳥は褐色の斑紋があります。)



▲ササゴイ

ゴイサギより少し小さめ。小浜中学校の校庭  
の木にコロニー（集団営巣地）を作ったことが  
あります。



▲アマサギ

ササゴイと同じくらいの大きさです。  
白い体色にオレンジ色が目立ちます。

# 真っ白な鳥を見かけたら

足とくちばしの長い真っ白な鳥を見かけたら、シラサギだと思う人は多いでしょう。南川で見られるシラサギの大半はコサギですが、コサギよりずっと大きいダイサギやその中間位の大きさのチュウサギも見られます。

(注：シラサギとは白いサギ類の総称です。シラサギという種名はありません。)



◀コサギ

1年を通じてよく見られます。南川で普通に見られる白いサギの仲間で一番小さな鳥です。足指の黄色が特徴です。



ダイサギ▶

白いサギの仲間では最大です。  
くちばしは黄色です。



◀チュウサギ

その名のとおり、コサギとダイサギの中間の大きさです。  
目先の裸出部が黄色です。

## 南川の秋の景色



▲色づきはじめた山々



▲秋の南川



▲中州にも秋の気配が感じられます。



▲セイタカアワダチソウの群落です。



◀ミズソバが咲き乱れています。

## 秋の紅葉



▲紅葉



▲黄色

### 紅葉

緑色の色素（クロロフィル）が分解した後、アントシアニン（赤色）ができます。



イロハカエデ



ウリハダカエデ



コバノミツバツツジ



ミヤマガマズミ

### 黄葉

クロロフィルが分解した後、キサントフィル類（黄色）が目立ってきます。



イタヤカエデ



クロモジ



コクサギ

## 南川の冬景色



▲中流域の冬景色

南川に冬が訪れました。



▲南川の冬景色です。



▲中流域の冬景色です。

### タシギ▶

雪の中でタシギが春を待っています。



## あとがき

余暇がふえた今日の社会では、家族連れや親しい友達のグループなどで、自然に親しむ機会が多くなりました。路傍に咲く花々、森の中でさえずる小鳥たち、花から花へ舞い飛ぶチョウ——、それらに囲まれた自然の中で、ただ時を過ごすだけでも心は安らぎます。しかし、せめて植物の名前が分かったら、ほんの少し動物の生活に関する知識があったら、山歩きはいっそう楽しいものになるに違いありません。

この小冊子は、

- ・身边にある自然を見つめ直そう。
- ・いろいろな角度から、自然をながめよう。
- ・自然の中の動植物や人間とのかかわり合いを考えよう。
- ・自然の変化に気をつけよう。

といった考えで、自然観察のハンドブックとして作成しました。「南川」を散策する時、手元において利用していただければ幸いです。

監修者 松村 敬二

---

## 南川・自然観察の手びき

平成9年3月発行

---

監修 松村敬二

資料執筆 高橋繁広

(福井県自然環境保全調査研究会)

写真協力 上木泰男、長谷川巖、堀田高久

発行 福井県自然保護センター

〒912-01 福井県大野市南六呂師

TEL (0779) 67-1655

印刷 株式会社 松浦印刷所

---

この本は福井県自然保護基金によって作成されました。

---



南川の河口に集まるカモメの仲間